

平成 29 年度 第 4 回市民活動サポートセンター運営懇話会 会議概要

平成 30 年 2 月 22 日（木）18:30～20:00
横須賀市立市民活動サポートセンター

出席者	8 名…岩堀、佐久間、多賀名、妻沼、藤野、三澤、吉田、小澤
欠席者	2 名…石塚、川島
事務局	2 名…市民生活課 馬淵、長谷川
指定管理者	2 名…NPO 法人 YMCA コミュニティサポート 高橋、沼崎
傍聴者	0 名

- 配布資料
- 1 市民活動サポートセンター例月実績報告・利用者の声
 - 2 のたろんフェア 2018 報告
 - 3 YMCA コミュニティサポート 2018 年度事業方針・計画（案）
 - 4 サポートセンターデータベース登録団体一覧・新規異動分
 - 5 平成 30 年度運営懇話会日程（案）
 - 6 市民協働推進補助金・企画提案型モデル事業プレゼンテーションチラシ
 - ・ 「いきいき市民塾」チラシ
 - ・ 「団体を“見える化”する！市民活動のための“伝わる申請書・報告書”の書き方講座」チラシ

1 報告事項

1-（1）利用状況、利用者の声について

指定管理者及び市民生活課から、資料 1 に沿って報告した。

（指定管理者：汐入について）

- ・ 11 月～1 月は利用者数が伸び、現時点では昨年度を上回っている。インターネット印刷の普及もあり、印刷機の利用率は落ちているのだが、それでも利用者数が伸びているということは、市民活動自体は右上がりなのだろうとは思っている。
- ・ 活動紹介コーナーは、今年度は非常によく埋まっている。逆に、希望通り入れない団体もいるという状況。活動をアピールしたいという気持ちを持っている団体がたくさんいるということ。

（市民生活課：久里浜・追浜について）

- ・ 利用者数は前年度比で少し上がっている。特に、久里浜の 1 月利用者数が伸びている。
- ・ 久里浜のコピー機利用金額の上昇幅が大きいのが、原因は検証しかねている。

（懇話会構成員からの質問・意見）

- ・ 講座開催実績を見ると、自主講座の開催数と受講者数が一致している月があるが、受講者数が 1 名だったのか。何の講座か。

→そのとおり、1名ずつ受講していた。自主講座は、指定管理者主催のパソコン講座である。一昨年までは、2名以上でなければ受講できないこととしていたが、1つの講座に2名が申込んだうち、1名がキャンセルとなり、中止になることが多かった。せっかく申込んだのに受講できない、ということのを避けるため、受講料を少し上げ、1名から受けられるようにした。

なお、自主講座は、5種類、各4日1セットとして開催している。この資料では、1日を1回と数えているので、たとえば4回となっているところは1種類を4日間1セット開催したということであり、延べ受講者数4人とは1人が4日間受講したということ。（指定管理者）

- ・以前より、活動者もできることが増えてきて、受講者が減少してきたということか。

→現在は、シニアの活動者でも、退職前に会社でパソコンを使っていた人も増えている。全くパソコンを使えない人の方が少ないと思う。（指定管理者）

1-(2) のたろんフェア 2018 報告

指定管理者から、資料2に沿って報告した。

(指定管理者)

- ・来場者数は2日間合計5,428人で、前回よりも減っている。これは、終了時間を1時間早め、15時にした影響だと考えられる。
- ・開催時間を短縮したことは、参加団体からは概ね好評だった。
- ・新しい実行委員も多く、新しい企画案がたくさん出た。
- ・各団体の、フェアへの参加度合いが高かったと感じた。サポートセンターの担当者が、このフェアは皆で作上げるものだ、と言い続けたことが徹底されてきたように思う。終了を1時間早めた影響もあって、設営・撤収に参加団体のメンバーや運営ボランティアが積極的に関わってくれ、今までになく早く作業を終えることができた。「皆で作上げる」のはのたろんフェアの特長だと考えているので、今後もそうした意識を醸成していきたい。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・ミニ体験コーナーでの朝一番の発表は、ほとんど見ている人がいなかった。現在も館内放送で案内などしているが、もっとうまく人を取り込めないものか。
→特に一日目の朝一番は、まだフリーマーケットに人が集中している。（指定管理者）
- ・少し時間を空けて、場内が落ち着いてから発表した方がいいのではないか。
→例年、課題として感じてはいるが、ミニ体験コーナーは非常に人気で、今でも枠がびっしり埋まっている。開始時間を遅らせるには、一団体あたりの時間を減らすか、団体数を減らすしかないため、難しい。
今回、一日目の朝一番のプログラムは賑やかなパフォーマンスであったため、それでもまだ耐えられていた。他の団体では難しかったと思う。
体験コーナーなので、本当は来場者には見るだけでなく、参加してほしい。（指定管理者）
- ・事前に参加者を募集するのはどうか。
→何か実施方法を工夫したい。（指定管理者）

- ・会場内のボランティア・実行委員休憩所に、子どもが数人いた。そばに親らしき人もいたが注意していなかった。ボランティアの名札を下げているなければ、無関係な人なのは分かる。今回は何も言わなかったが、次回から注意してもいいか。
→今回、子育て支援団体が複数参加していた。そうした団体では、小さな子どもを連れて来る活動者も多いが、参加団体は10時から15時まで会場にいななければならないので、子どもはどうしても飽きてしまう。事情も分かるので、スタッフも対応に苦慮している。
親がそばにいる場合など、大人への対応は考えたい。また、会場の広さに限界はあるが、子どもの遊び場を作るなどの対応も考えられる。子育て支援団体が増えるのは指定管理者としても喜ばしいことだが、こうした問題が起こることも念頭に置いて、次回に向け検討していきたい。
(指定管理者)
- ・子どもは叱れないから野放しでいい、というのではなく、親に対して、子どもをしっかり見てほしいという啓発は必要。色々なことを考えながら、皆で楽しめる場にできればいいと思う。
- ・終了時間を早めた目的は何か。
→昨年度までは16時にフェアを終了し、外が暗くなっていく中で屋外テントを撤収していた。
ボランティアの高齢化も考慮し、安全性に配慮しての変更である。市内のイベントを見ても、16時まで実施しているものはあまりなく、日が短い2月ということもあるので、無理に16時まで開催しなくてもいいのではないかと考えた。(指定管理者)
- ・自分も屋外ブースを手伝ったが、夕方になると寒くなってくるし、15時が限界だと感じた。
→販売団体には、完売しても終了時間まで残っててください、とお願いしている。食べ物が一番売れる昼時に完売しても、昨年までは16時まで残っていなければならなかったもので、その点は改善できた。(指定管理者)
- ・14時以降は人も減ってきたように思う。
- ・終了時間を早めたにしても、昨年度に比べ、人数の減少幅が大きいのではないか。
→開催時間数に影響される集計方法を採用しており、単純に比較できない部分もあるとは思っている。(指定管理者)
- ・ドブ板バザールと同日開催となったのは偶然か。
→毎年、こちらから同日開催を希望している。ただ、ドブ板バザールの方が開催日程を決めるのが遅いので、希望通りにできなかった年もある。(指定管理者)

1-(4) 平成30年度(2018年度)事業計画について

指定管理者から、資料4に沿って報告した。

(指定管理者)

- ・当資料はNPO法人YMCAコミュニティサポートの法人としての事業方針・計画であるため、サポートセンターの管理運営業務と、サポートセンターを中心とした自主事業と、NPO法人としての独自事業がすべて含まれている。
- ・お示ししているものは案であり、法人としての決定は3月の総会后となる。
- ・資料には記載していないが、利用者数が伸び悩んでいることもあるので、より多くの市民、でき

るだけ新しい人たちに来てもらえるような仕組み作りを来年度計画の柱にしたい。「にぎわい大作戦」と称し、施設内レイアウトの再検討や、ここに来れば常に何かが行われている、という雰囲気作りなどを行っていく。現在、スタッフ間の意見をまとめているところ。

既に動いている新たな取り組みとして、4Sクラブという団体と連携し、「いきいき市民塾」というイベントを館内で開催する。市民活動を行っている人の経歴やエピソードをみんなで聞く場を作るといったもの。3月5日(月)に第1回を開催し、今後も年に数回開催していきたい。

他にも色々な取り組みを行っていききたい。懇話会構成員の皆さまにも、アイデアがあれば、ぜひいただきたい。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・「いきいき市民塾」について。横浜では、市民団体が、歴史や経済など、活動者がそれぞれ自分の得意分野について順番に話すという会を4年ほど実施していたところ、市の事業となって定期的で開催することになった、という事例がある。そこまで行くには労力がかかると思うが、少しずつ、一般の市民が関心を持つような題材や、それを話せる人を集めていければいいと思う。
- ・「いきいき市民塾」は、スピーカーの話聞くだけなのか。終了後に懇親の時間はあるか。
→質疑応答の時間は設ける予定。(指定管理者)
- ・市民活動をしている人の話を聞くと、団体間の横の繋がりが欲しい人は結構いるのだなと感じる。また、以前、ある活動をしたい、という人と話していて、サポートセンターを紹介したところ、「そこに行けば、既に活動している人たちの話をいつでも聞けるのか」と言われた。そういう場でもないな、と思い答えると、「そういう機会はないのか」と言われた。ざっくばらんに、活動の先輩たちの話を参考に聞きたい人もいるのだと思う。
→この事業を当初考えた際には、交流の要素もコンセプトに入っていた。また、担当スタッフと話した際、講師の話を一方向的に聞くのではなく、なるべくアットホームな、たとえば輪になって話を聞くような形をイメージしていた。そのように、交流しやすい雰囲気を作っていくことが大事だと思う。現在、チラシでは交流について明記されていないが、少し交流の時間を設けた方がいいのではないか、と担当スタッフに伝える。(指定管理者)
- ・月初めの数日間など日程を決めて、サポートセンター内に数団体分のブースを設け、相談コーナーを開いてはどうか。この日に行けばこういう団体の話が聴ける、という形ができればいいと思う。
- ・活動紹介コーナーを利用した際、来場者にアンケートを取ったが、「字の展示だと、照明が暗くて読みづらい」という意見が複数あった。電気工事など大掛かりなことではなく、簡易な対応で改善できないか。今後、館内レイアウトを変更するのであれば、検討いただきたい。
→「にぎわい大作戦」の中でも、活動紹介コーナーは人気があるので、より目立つところに、より広く設けたい、場合によっては複数箇所にしては、という意見もある。
現在の明るさは、東日本大震災以降、節電のために照明数を間引いていることによるもの。仮に活動紹介コーナーが今の場所のままだった場合、照明の数を元に戻すと、施設の節電目標との兼ね合いが出てきてしまうので難しい部分もある。何か工夫を考えたい。(指定管理者)

(座長)

- ・この件については来年度の懇話会でも取り上げる予定。

2 議題

2－（1）サポートセンターデータベース登録団体と公益性の判断について

指定管理者から、資料4に沿って前回以降の新規登録・異動団体について説明した。

（懇話会構成員からの質問・意見）

- ・特になし。

3 その他

3－（1）平成30年度運営懇話会開催日時について

市民生活課から資料5に沿って説明した。

（市民生活課）

- ・資料を各構成員に送付したあと、本日欠席の構成員から、第4回にあたる2月第3木曜は、毎年決まった予定があるため出席できないと連絡があった。日程の変更も含めて検討いただきたい。

（懇話会構成員からの質問・意見）

- ・第1回～第3回は、日程（案）どおりで問題ない。
- ・第4回は、2年間の任期の最終回にあたるので、せっかくならば全員揃った方がいい。
- ・第4回の開催日程を2月20日（水）に変更する。

3－（2）市民協働推進補助金・市民協働モデル事業応募状況とプレゼンテーションについて

市民生活課から資料6について説明した。

連絡事項

（市民生活課）

- ・市民公益活動団体のための講習会「団体を“見える化”する！“伝わる申請書・報告書”の書き方講座」（3月4日）のお知らせ。
- ・平成30年2月18日に市民表彰があった。市民公益活動に貢献された団体として、運営懇話会でご意見をいただいた候補から指定管理者に3団体を推薦いただき、「THE☆すかつ子『ソーラン』」「パソコンお助けネットワークよこすか」「横須賀開国甲冑隊」が表彰された。
- ・平成30年度第1回運営懇話会は平成30年5月17日（木）18：30～サポートセンターにて開催予定。

以上